

## 8

## 税に関する作文

## 令和5年度 福岡国税局長賞

## 小さな税金、大きな税金

北九州市立若松中学校 三年 都留 宝

若松の一部の地域では、民間バスとは異なる市営バスが走っている。かつて、民間バスが走っていたコースも、赤字が続いたため路線が廃止となり、市が引き継いで運行しているようだ。赤字だからといって、運賃が引き上げられることもなく、従来通りに設定されている。民間レベルで考えれば、赤字で廃止となった路線を引き継ぐことは、なかなか難しい。もともと利用客の少なかった地域なのだから、経営のやり方をうまく変えたとしても、黒字化は見込めない。ましてや、運賃を据え置くととなおさらだ。

お金の損得よりも、そこで生活する人たちの利便性を考え、できる限りの手助けをするこれが、行政が行う優しいサービスであり、税金の優しい使い方なのかもしれない。たとえ、「とても助かっているよ」という喜びの声が少なかったとしても、税金にしかできない小さなサービスなのだと思う。

夏の暑い日、近くの公園を作業着で清掃している人を見かけた。太陽の日差しを浴びてここぞとばかりに勢いよく伸びきった雑草を汗だくになって刈っていた。自分たちが公園を汚さないようにしても、公園には定期的な清掃が必要だ。たとえば雑草と同じように、公園では木々の枝葉も伸びてくる。そこに鳥が止まれば、無数のフンを落とす。風の強い日には、どこからか飛んできたゴミたちが、公園の隅に重なるようにたまっていく。季節が変わると、今度は枯れ葉が公園をおおい尽くす。黙っていても、公園は自然と汚れていくのだ。だけど、自分たちが散らかしたわけではないので、なかなか掃除をしようなんて思い立たない。それでも、誰かが掃除をしなければ、やがて公園自体が使えなくなってしまう。

やっぱり、損得なんかじゃない。公園で遊び、くつろぐ人たちの使いやすさを考え、できる限りの手助けをする。ここにも、行政の優しさ、税金の優しさが表れている。それだけじゃなく、掃除をしてくれる人たちが雇用することで経済効果も期待できる。まさに、税金にしかできない小さなサービス。

校区の丘から見える広大な埋め立て地や、芦屋基地で見た自衛隊の隊列や、ニュースが教えてくれる外国への援助など、税金には税金にしかできないスケールの大きなものもある。自分の体内をつらぬく大動脈のように、国の繁栄を支えてくれている。それはそれで素晴らしいことだが、一方で毛細血管のように張り巡らされた小さな税金も欠かせない。

友の手を握ると温もりを感じる。これは、手のひらに無数の血液が流れているからだ。税金もどこか血液の巡りに似ているような気がする。そして、小さな税金、身近な税金の方こそ、温かみを実感させられる。その温かみを生み出す一滴一滴は、泉のように湧き出てくるものではない。自分たちが高い使命をもって、尊く作り出していくものなのだ。

## 令和5年度 九州北部税務関連団体連絡協議会会長賞

### 私を支えてくれる税

北九州市立尾倉中学校 三年 山口 智香

私は中学一年次、入学式を終えて間もなく突然、国指定の難病「ネフローゼ症候群」を発症しました。学校にも行けず、入院生活が長引き、たくさんの薬を投薬される毎日で、いつも家族に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。健康であれば支払わなくていいお金をこんなにたくさんの薬が処方され、しかも完治する事のない病気であり、ずっと親に負担をかけてしまうと思う気持ちまで減ってしまいました。毎晩仕事を終えて病院に来てくれる母親に「ママ、お金大丈夫？迷惑かけてごめんね。」と泣きながら伝えたとき、母から「智ちゃんは何も悪くないし、病気にかかるお金は皆から助けられているのよ。頑張らなきゃね。」と言われました。その時は私の病気の治療のために皆が助けてくれているという実感がなく、私の周りの医療従事者の方々と家族にしか助けられていないような気がしていました。

「私の事を皆が助けてくれている。」その意味が分かったのは退院して間もなくでした。私が住んでいる福岡県で記録的豪雨により甚大な被害が発生した後の復興のニュースを見た時です。河川や道路の復旧工事、学校の復旧作業が迅速に行われて、少しずつ元の街並みが戻ってきた映像を見たとき、この膨大な復興費用は私たちの納める税金から支払われているという事はなんとなく分かっていたのですが、もしかして母が言った「皆に支えられている命」とはこの事かもしれないと思い調べたところ、私が罹患している「小児ネフローゼ症候群」は小児慢性特定疾病に該当し、そのような疾病の治療を受けた場合にかかる医薬費を一定金額の自己負担額以外は国が助成してくれるという医療助成制度がある事を知りました。

ただ、国が助成してくれているというだけでそのお金の「出どころ」はどこなのか？という事は知らず、調べると実はそれは税金でした。身近なものでモノを買ったときに発生する「消費税」や居住する地域によって支払う「住民税」さらには母のような給料所得者にかかる「所得税」など、税金の種類は50種類にも及ぶ事を知りました。

「消費税また上がるの？」「税金なんて何に使われているの？」という負のイメージしか持っていなかった私は知らぬ間にその税金で医療を受ける事ができていました。考えてみれば当たり前のように生活している日常の中でも、道路や信号機、学校や黒板、身近な生活の中に税金が活きていて、私たちの暮らしを支えていたことに気付く事ができました。

「皆に支えられている命」私は見えないところで国民の皆さんの税金で高度な医療を受けながら今日も学校に通うことができています。これからは「知らないまま」にするのではなく「自ら調べて知る」事で、税の大切さを実感していきながら日常生活を送っていきたいと思います。